

人権啓発センター だより

平成28年4月

No.28



雑 感

高知市の中学校と地域との教育関係の会で子どもの貧困が話題となった。そのなかで、最近の修学旅行では約40%の生徒が参加できていないという報告があって、参加者は驚いていたそうである。新聞で「子どもの貧困率」（17歳以下の子どもがいる世帯に占める貧困世帯の割合）は1992年の5.4%から2012年は約2.6倍の13.8%に悪化したと報道されても、町で元気な子どもを見ていると実感がわかなかったが、身近な中学校での実態を突きつけられると、本当に言葉を失う。

子育ては家族だけが行うものとする、社会の変化の中で生きていくための能力や権利を、飢餓や貧困で十分獲得できない子どもが増えているのかもしれない。少子化や非正規労働の拡大など社会、経済状況の変化のなかで、すべての子どもに将来の地域社会の一員として健全に育ってもらうには、社会の方でも子ども食堂や夜間中学校など、様々な状況に応じた多面的なシステムの構築と人的ネットワークによって子育てに一層かわっていくことが必要だろうと感じた。

（理事長 西尾）



人権あれこれ

～「心のバリアフリー」～

町や建物内でよく見かける点字ブロックは視覚障がい者を安全に誘導するために地面や床面に敷かれているブロック（プレート）で、写真右上は方向を示す「線ブロック」、同右下は注意を促す（止まれ）「点ブロック」である。

この点字ブロックは日本人が発明し、世界で初めて岡山市の岡山県立岡山盲学校に近い交差点に敷設されたのが1967年3月18日であることから、この日が「点字ブロックの日」となっている。

障がい者も健常者も共に生きる社会をめざす考え方をノーマライゼーションという。ノーマライゼーションへの実現に向けての代表的な取り組みのひとつとして、生活上の障害を取り除く「バリアフリー」がある。点字ブロックの敷設もその一例である。

しかしハード面での整備がなされていてもその機能が阻害されてしまうこともある。例えば、点字ブロックは視覚障がい者にとって頭の中にインプットされている地図ともいえるが、その上に荷物や自転車を置かれると歩行の妨げとなるだけでなく、怪我をしたりする。また、トラウマ（心的外傷）になって、外出を制限することにもなる。

バリアフリーの考え方は、建物や制度が重視される傾向にあるが、もっと大切なことは、私たち一人ひとりの「心のバリアフリー」ではないだろうか。



（研修講師 中西）

じんけんライブラリー

一押し本

『メディアにむしばまれる子どもたち』

田澤 雄作（たざわ ゆうさく）／著 教文館（1,300円＋税）

「不適切な養育環境」の中で、年齢相応に心が成長できない状況に置かれたままの子どもが大勢います。いま問題になっている様々な社会的現象や反社会的事件の背景にある問題のからくりを解き明かしながら、傷つけられた子どもの心には、回復する力があること、また、次世代に「希望」があることを伝えています。

（企画啓発課 松本）



ちょっといい話

「ほめ言葉のシャワー」

「ほめ言葉のシャワー」。この言葉をみなさんはご存じでしょうか。これは北九州市の元小学校教諭が考えた教育指導の一つで、日替わりで一人の子に対してクラスメイトがその子の良いところを発表していくというもの。毎日発表するため、普段から同じクラスの子の良いところを観察して過ごします。すると自然とクラス全体に尊重し合う空気ができ、居心地の良い学級が出来上がっていくそうです。自分らしさを出しやすいクラスで普段から自主的に発表し表現できることで、多くの学びをスムーズに吸収しやすくなる。もちろんこ

ういう状態だと学級崩壊になりにくく、クラス全体で目標に向かって行きやすいとのこと。

私は小さい頃、決してまじめなタイプとはいえず、他人をほめることが恥ずかしいと考えていたような気がします。小学校の時にもし「ほめ言葉のシャワー」を体験していたら、もっと学校も人も好きになっていたと思います。

大人だって、こんなシャワーを浴びることができると良いですね。

（企画啓発課 佐伯）



事業報告

第3回・第4回 人権啓発研修ハートフルセミナーを開催しました

◆【2月21日】「ダウン症の娘とともに生きて」 講師：金澤泰子さん（書家） 参加者164名

金澤泰子さんが2度の流産を経て42歳の時に授かった翔子さんはダウン症でした。泰子さんが「人生最大の苦悩」と思った出産から30年。翔子さんは立派な書家となり、2015年3月には、ニューヨーク国連本部で「世界ダウン症の日」日本代表として招待されました。そんな翔子さんを支え続けてきた泰子さんのお話に参加者は深く聞き入り、多くの感想が寄せられました



〈アンケートより〉

- ◇「光と闇は同時にくる。生きてさえいれば絶望はない」「信じれば力を発揮することが出来る」、実感のこもった言葉に涙が出ました。お二人の素晴らしい人生に励まされました。
- ◇子どもの可能性を信じて、過保護にせず、壁を作らないことが大切だと感じました。ニューヨークのお話がとても良かった。今日はありがとうございました。
- ◇「障がい」という壁を作っているのは周りの人たち。不可能などないということを感じた。否定することはその人を認めていないこと。ありのままを受けとめることが大切。
- ◇「親の方が壁をつくっている」という言葉に気づかされました。
- ◇唯心論。心が全てを決めるという考えに感銘を受けました。お嬢さんを誉める分だけ苦労されたのだらうと感じました。
- ◇すばらしかったです。私の子どもも障がいがあり、目標は自立です。良い希望、光が見えてきました。

◆【3月6日】上映会 第1部「こどもこそミライ～まだ見ぬ保育の世界～」 参加者135名 第2部「みんなの学校」 参加者258名



定員の270名に迫る大盛況の上映会となりました。作品も、アンケートの「大変良かった」「良かった」の数値が合わせて100%となるなど、高い評価を得ました。「涙が出た」「いろんな方に見てもらいたい」という声も多く、今後の波及効果が期待できそうです。

〈アンケートより〉

- ◇人とかわるものの原点を見たと思いました。
- ◇講演などの形式での啓発が多いが、このように、映画を通しての実際の姿を見て、学ぶ場もだれもが参加しやすいと感じた。また、保育や学校教育について、とりあげていただいたことがよかった。社会全体でインクルーシブ社会を広げていきたいと強く感じます。
- ◇1人ひとりの子どもに寄り添った援助。そして職場のチームワークの大切さ。「周りの見る目が子どもの行動を変える」という言葉が印象に残りました。
- ◇「こどもこそミライ」を見て、幼児であっても大人が何でもやってしまうず、子どもの成長を温かく見守ることで、安心して子どもたちは育っていくのだと思いました。ケンカでも子どもたちにできるだけ解決をさせる、その中で、子ども同士のコミュニケーション能力が育つことがわかりました。「みんなの学校」は本当に素敵な学校だと思う。学校は先生方だけでなく、保護者や地域のみんなでつくっていくということが良くわかった。すばらしい映画会を企画してくださりありがとうございました。

（※会場はいずれも高知県立人権啓発センター6階ホール）

（企画啓発課 宮田）

Information お知らせ



啓発冊子の紹介

平成27年度人権啓発研修テキスト

県や市町村の職員、企業や団体のみなさんから、職場での人権研修の企画や内容、進め方等についての質問や相談が多くあります。

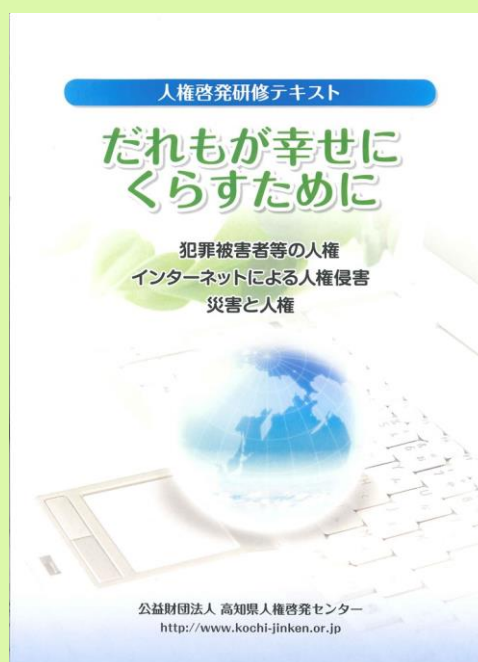
また、研修用の資料や視聴覚教材等の問い合わせも増えてきています。

そのため、各職場での人権研修に、より活かせるプログラムや教材、資料等を掲載した人権啓発研修テキストを作成しました。(40頁・フルカラー)

- 内容
- ・犯罪被害者等の人権
- ・インターネットによる人権侵害
- ・災害と人権

ご希望により無料配布しますので、ぜひご活用ください。

(ご希望の方は、下記の問い合わせ先までどうぞ)



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
 - ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
 - パネル
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
- ※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
(送料は利用者のご負担となります)



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名(机を使用する場合は180名)
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : http://www.kochi-jinken.or.jp